

Title	インデックス・ファンド評価の研究 - 比例層化抽出法によるベンチマーク・ファンド構築に関する考察 -
Sub Title	
Author	大塚康成 村井俊雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第530号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0530

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 大塚 康成

主査 村井 俊雄

副査 関谷 章

所属ゼミナール 太田 康信 研

太田 康信

インデックス・ファンド評価の研究

一比例層化抽出法によるベンチマーク・ファンド構築に関する考察一

本論文は、パッシブ・コア／アクティブ運用戦略を前提として、運用目的を加味したベンチマーク・ファンドの構築方法に関する考察である。ベンチマーク・ファンドとは、運用目的を評価するために必要なパッシブ・コアとしての相対基準である。

既存の評価尺度に関する検討を実施し、既存の評価尺度は、運用目的を評価し得ないことを示している。また、目的別ベンチマーク・ファンドの基準（ベンチマーク）として、インデックスを取り挙げている。このベンチマークとしてのインデックスに関する検討も同時に実施した。

目的別ベンチマーク・ファンドの構築方法は、インデックス・ファンドの構築方法として知られている比例層化抽出法を使用している。対象市場は、東京証券取引所一部市場に限定して、検討を実施している。買い持ち型のインデックス・ファンド構築に関する検討を通じて、比例層化抽出法の問題点についても考察した。

検証結果は、比例層化抽出法では、買い持ち型のインデックス・ファンドを構築することが不可能であることが検証された。この結果から、比例層化抽出法を使用して、その抽出基準に目的に関する政策的な基準を使用することによって、ベンチマークの規模変化の指標とパターン変化の指標に柔軟な銘柄をベンチマーク・ファンドに組み込むことが可能であることが検証された。最後に、この結果をふまえて、目的別ベンチマークの実用化への可能性を検討している。